

山形大学農学部 of 学生を海岸防災林に案内し、 現地研修を実施しました

庄内森林管理署

開催日: 令和8年6月10日

開催場所: 鶴岡市湯野浜海岸

山形大学農学部と東北森林管理局は、それぞれの資源や機能の活用を図りながら、生物多様性の保全をはじめとする多面的機能の持続的発揮、森林・林業の再生及び地域振興に貢献できるような調査研究及び人材育成等の促進を図ることを目的として、「山形大学農学部と東北森林管理局の連携と協力に関する協定書（平成23年12月21日締結）」を締結しています。

山形大学農学部のキャンパスが鶴岡市ということから、庄内森林管理署では、毎年3年生を受入れ、「森林生態学実験実習」と称し、国有林野の事業を紹介する研修会を開催しています。

本年度の研修会は、6月10日に鶴岡市浜泉国有林の湯野浜地区にある庄内海岸林において、生徒35名を対象に、「松くい虫被害対策」と「海岸防災林造成事業」について実施しました。

「松くい虫被害」の研修では、メカニズムと防除対策、被害後の対策を説明し、現状を見てもらいました。生徒からは「衰退した海岸林を再生するための事業を説明していただき貴重な体験となった」という感想をいただきました。すると、偶然にも松枯れの犯人である「マツノマダラカミキリ」を現地で捕まえ、生徒たちに見せると、「昔の人が苦労して守り育ててきた松林が、この小さな虫により消えてしまうのは悲しい」という声も聞かれました。

また、「海岸防災林について」の説明では、「砂丘の高低差が想像以上だった。」「砂丘を造成することで松林が育成され、人々の暮らしを守っているということが分かった」という感想をいただきました。先人達が苦労して築いてくれた海岸林に対し、生徒たちが関心を持ってくれたことに説明した甲斐がありました。



松くい虫被害対策の講義



海岸防災林の講義

研修の終盤には、5班に分かれ、署の若手職員がリーダーとなり、フリートークで意見交換を行いました。テーマは、「国有林野のお仕事」「就職活動」などです。

年代の近い若者同士のため会話も弾み、「就職の動機」や「職場でやりがいがあると感じたこと」、「転勤はお金がかかり大変なのでは」などの質問が飛び交ったようです。

聞くところによると、生徒の半数は公務員志望だそうで、その中には林野庁も視野に入れている生徒もありました。研修会に参加し国有林野に興味を持った生徒の中から、一人でも多く林野庁を目指す人材が現れればいいな。と思っています。



砂浜から前砂丘を見上げる



グループに分かれた意見交換

この山形大学農学部の生徒との意見交換の場は、国有林野事業の取組について理解と興味を持ってもらう絶好の機会です。

庄内森林管理署では、一人でも多くの優秀な人材が林野庁への就職を志望することを願い、このような研修会の継続的な実施と情報発信に努めてまいります。